

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 2年

氏名: 森永昂誠

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンでは、経済についてや日本の企業がどのようにしてフィリピンに進出して活躍しているかを学んだ。また、PUPの学生との交流で、英語を多く使ったので英語についても学べた。実際に英語を使って見ると、文法とかよりも単語とジェスチャーで会話が成立することが分かり、分からないことでも挑戦することの大事さを学べた。フィリピンは、人口も多く今後見込みのある市場となりうる可能性がある。また、英語力はとても高いものを持っており、我々日本人も見習うべきところは多くある。緑の革命に関係する施設に訪問し、米の種類の多さを知った。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンの首都であるマニラは、東京などとは違い都市部のすぐ近くにインフラが整備されていないところなどがあり、都市と未開発の部分が混在していた。また、フィリピン人は笑顔が多く優しい人が多かった。フィリピン人は時間にルーズな人が多く、日本よりも時間がゆっくり流れるように感じれた。フィリピンのホテルに泊り、町を散策すると日本がどれだけいい環境で治安がいいのかを感じることができた。道路のいたるところに小さな店が出ており、安くで楽しめそうだった。また、全体的に若い人が多く、町に活気がある感じがして、生活しとても楽しそうな感じがあった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前と後で一番変わったことは、英語の学習に対する意識の違いだと思う。研修前は、ずっと鹿児島に住んでいて英語の必要性をあまり感じていなかったが、実際に海外に行ってPUPの学生と英語で話す環境に置かれると、コミュニケーションの方法としてとても大事だと感じた。フィリピンに行かなかったら、残りの大学生活で英語を勉強しようとは思わなかったと思う。また、発展途上国に対する興味が増えた。フィリピンは、日本より教育を受けている子供が少なく、実際に街中でも店の手伝いをしている子供たちを見ると、しっかりと教育を受けられるような環境になってほしいなと感じた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>地域社会の発展に寄与するために、わたしは地元である鹿児島とフィリピンのどの海外の国との交流を深めていけるようなことをしていきたいと思う。そのためには、まず英語を話せるようになることが必須なので大学生のうち勉強しておこうと思う。具体的なことは決まっていないが、学生交流や文化の交流ができればいいと思う。また、海外の人が多く参加するイベントなどにも参加して地域社会の発展に貢献したい。自分が英語が話せるようになれば、イベントの企画、運営の手助けになると思うので意欲的に英語を学び、積極的にイベントなどに参加していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 2年)

氏名: 平田凌

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンの大学であるPUPで行われた学生交流において、向こうの学生さんと互いに日本とフィリピンに関するプレゼンテーションをしたのち、少し日本語を学ぶということも行った。国が違えば、文化や経済状況も異なってくるため、比較しながらお互いに質問を交わし内容の理解をより深めた。またPUPの学生さんは私たちが英語や中国語を学ぶことと同じように日本語を学んでいて、一緒に日本語の勉強をしているうちに、客観的に見て日本語を外国語として学ぶことはとても難しいことであると感じた。そのように物事を見る時の主観と客観の違いは何においても大切なことであると感じた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>実際に現地に赴き、1週間ではあるが生活して、改めて日本の素晴らしさに気づくとともに、国によって様々なことが違うのだと身をもって気づかされた。フィリピンは経済格差がとても大きい故に、場所によって同じ国にいると思えないほどに違った空気感であった。都心部では日本の都会のように高層ビルやインフラ整備などもしっかりしてあるが、一方で郊外に出ると危険がそれなりに伴うほどに治安が良いとは決して言えなかった。それでも現地の人々はそれが当たり前で日々暮らしているわけであるから、何が正しいかなんて一概に決められないため、非常にこの経済格差は難しい問題だなと感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>4日目に訪れた日本の商工会議所でのお話が私はとても深く考えさせられた。研修前はフィリピンは比較的田舎の街並みを想像しており、全くもってこんなにも都会であると考えられなかった。富裕層と貧困層の差があまりにも激しく、互いの層の人々が交わることは生まれてから生きていく間にはないということを考えると、本当に同じ国でも違う世界で生きているような感覚であるだろうからとても心が苦しかった。日本にもそのような経済格差は少なからず存在はするだろうが、ここまではっきりと格差が目に見えて、実際に現地でそれを肌で感じることで、この問題の大きさを認知することができた。とてもではないが、この問題を無視してはいけなないことだと感じた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンに限らず各国における問題を解決、そしてその地域社会の発展に必ず必要になってくることはコミュニケーションをとるとのことだ。当たり前のことではあるが、国が違えば必ずそこには言語の壁が存在する。言葉ではない何かで通じ合えることもあるかもしれないが、実際に互いの考えや気持ちを感じるには言葉というのとはとても大切な分かち合うツールであると感じた。またそれと同時に実際の今の自分の語学力に落胆した。そのため発展に寄与するために必要なはじめの一步であるコミュニケーションをとるために英語力を今より一層鍛えていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 橋本幹大

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先では、PUPやUPといった大学との交流があり、PUPでは生徒との交流やプレゼンテーションを通して、異文化交流ができ素晴らしい経験になった。英語でしか会話ができないという環境のもとで他大学との学生と親交を深めることができたという自身はこれからもつながっていくと思う。また、UPでは、UPの学長などとお話をする事ができ、貴重なお話を聞くことができた。そしてIRRIの世界のお米を貯蔵している施設でも、コメの倉庫などをみることができ、素晴らしい経験になった。それと同時に、自分は英語を話せないと思っていたが、PUPの学生や先生などと交流をしているときに、しゃべろうとすれば、ジェスチャーなどを使って相手に自分の意見が伝わる事が理解できたことは今後にも生きてくると感じた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地の生活を通して、改めて日本での暮らしの豊かさを感じました。私たちは、初日からフィリピンのマニラに宿泊し、そこはフィリピンの中でも治安が悪く、路上で寝ている人や物乞いなども多くいました。常に危険を感じ、ものが盗まれないように身の回りに気を付けながら、街を歩くことにも一苦労でした。また、そこでは幼いながらも、働く子どもたちを多く目にする事ができ、小さいころから生活をするために、働く子どもをみて、胸が痛むと同時に、世界ではそのような子どももいるのだと、心に響くものがありました。教育を受けることが当たり前とってきたが、新しい世界を目にして、世界では教育さえも受けることができない子供たちがいることを知り、少しでもこのような子供たちに貢献できることがあればと心から感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>積極的にコミュニケーションを取りに行くようになったことが最も大きな成長を感じた。研修前では、英語で話す際に、自分の拙い英語で伝わらないだろうとネガティブな考え方をしていた、積極的に英語を話すことができなかったが、研修中に英語でしか話すことができない環境になり、いざ英語を話してみると、思っていたよりも自分の英語が伝わり、自信になった。実際にPUPで学生と交流する際にも、自分は両隣の生徒と多くコミュニケーションを取り、2人の親友ができたことは成長したと感じた。また、フィリピンの人たちの家族を大切にするという考え方に関して、家族だけではなく、血がつながっている人はみんな家族のような考え方をしていたことに感銘を受け、自分も家族に感謝を伝えるようにした。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するために、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載してください(250~300文字程度)	
<p>外国人との交流を増やしていきたいと考える。鹿児島にも、観光や労働などで多くの外国人の方が在住している。それにより、普段の生活の中でも外国人の方を多く見かけることがある、その際に、困っていることなどがあれば積極的に話しかけて行こうと思う。外国人を手助けする一歩目として、講義で外国人の方がいたときには、少しでも授業の手助けができるようにサポートなどをしていきたいと思います。また、ジョアン先生がプレジデントとしている、KFCなどのコミュニティにも参加していきたいと思う。それと同時に、来年以降、留学をして、そこで学んだ知識や海外での留学経験を地域社会の発展に寄与するために、海外旅行客や在日外国人の方々に少しでも貢献し、日本に還元していくことが今の僕の目標である。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・3年

氏名: 向吉瞭

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンでの研修を通じて、私は多くの貴重な経験と知識を得ることができた。まず、PUPの大学生との意見交換をするにあたり、私たちはプレゼンテーションの準備に多くの時間をかけた。プレゼンでは日本とフィリピンの関係についてまとめ、英語で発表を行った。</p> <p>その過程で、まず第一に英語力を身に着けることができた。特にスピーキングは難しく感じたが、外国人留学生と練習を重ねることで乗り越えることが出来た。</p> <p>次に、フィリピンと日本の経済、文化、政治についての知識を身に着け、国の比較することが出来るようになった。また、私自身、貧困問題や格差問題に対して、以前から関心があったが、実際に現地で、USAIDのアキノ先生と話をすることで、持続可能な発展の重要性を学ぶことが出来た。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地での生活を通して、私は、フィリピンでは、スーパーの一つのレジに3人も従業員がいたり、一つの入り口のドアマンが2人いるという様子を見て、労働状況が日本と大きく異なっていることに驚いた。</p> <p>この背景として、フィリピンでは人口過多によって労働の受け皿(仕事)が足りないことが問題であると知り、人口減少により無人化や自動化がすすむ日本と対照的だという印象を持った。</p> <p>しかし、このような差異は、両国の産業の欠点を補えるチャンスであり、協力することでお互いの問題解決に寄与できるのではないかと感じた。</p> <p>このように国際的な協力をするためには、私たち日本人にはやはり、さらなる英語力の向上や、異文化に対する理解、などが求められるためまずは英語をしっかりと学習したいと思った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は今回の研修で、ゼミ長として活動したが、活動をしていく中で、自分に合った新しいリーダーシップ像というものを見ることが出来た。研修前までは、リーダーとは優秀で、人の上に立ち、適切な指示をしながらメンバーを引っ張るものだという認識だった。このリーダー像は自分の性格には合わないのではないかと感じていたため、研修に対して不安を抱いていた。</p> <p>しかしながら、実際に研修に参加してみて、メンバーや先生といったたくさんの方々との協力しながら、プレゼンなどの様々な課題を達成することが出来た。この経験から、人と協働することも、リーダーシップのひとつであり、これを成し遂げるためには、普段のコミュニケーションや、関係作りが重要だと学ぶことが出来た。</p> <p>今回新たに発見できたこのリーダーシップ像を今後も意識して、生活していきたい。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は地域社会、特に今生活している鹿児島に今回の研修で得た経験を還元していきたいと考える。具体的には、鹿児島にいる外国人のコミュニティに積極的に参加し、英語等を活かして異文化交流に加わりたいと考える。</p> <p>こう考える理由は、自身の発表で鹿児島にいるフィリピン人について調べた際に、外国人労働者がより生活を楽しむためには仕事以外に参加できるコミュニティの存在が必要なのではないかと感じたからである。</p> <p>しかしながら鹿児島にはそういったコミュニティが少ないため、異文化交流の機会をもっと増やすために、まずは、鹿児島にいる外国人とのコミュニケーションを通じて、外国人が鹿児島にいて困っていることを理解し、解決策を提案したり、生活を楽しめるような場所をいつか作りたいと考える。</p> <p>そしていつか自分でも異文化交流のイベントを開催し、日本人と外国人の交流の一翼を担えるよう努力していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2

氏名: 山口晃世

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンの学生との交流や現地の日本の方々の話を通じて、そして現地の人々の生活を実際に見て、フィリピンの生活や文化を肌で感じる事が出来た。学生交流においては、互いの国の文化や習慣について意見を交換した。特に時間感覚や食事に関して大きな違いがあることが印象的であった。互いの国の利点を上手く採り入れるとより良い文化が生まれると思った。また、フィリピン日本人商工会議所においてはフィリピン経済の現状と日本企業のフィリピンにおける経済戦略を学ぶことが出来た。実際にフィリピンで見たものと教わる話がリンクして非常に貴重な話だった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>首都であるマニラに五日間、ロスバニョスに二日間滞在したが、経済格差の問題を肌で感じた。ビジネスの中心地であり、日本人が多く住むマカティでは、鹿児島でもあまり見かけることの無い高層ビルが多く建ち並び、開発が進められている一方で、少し車を走らせれば360度違った景色が見られた。この問題の根底には貧困問題が存在していると考えた。急激な経済成長による若者や生産年齢人口の増加に雇用が追いついてないためか、街中には仕事をいくつも掛け持ちしてやりくりをしているという人もいた。英語を話すことが出来るというアドバンテージを活かし、英語圏の先進国への進出、それを可能にする教育の拡充が必要だと思った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンに八日間滞在する中で英語の重要性を学び、自分の英語力が不足していることに気づいた。学生交流においても何度か聞き取れなかった言葉があったり、日常生活においてはジェスチャーや簡単な単語を交えてコミュニケーションを取ることが出来たが、例えば「政治」や「農業」など専門的な分野になるとリスニングもスピーキングも力不足を感じた。しかし、英語圏の人々と話し、研修前と比べてスピーキングの力が上がったこと、また自分の今の実力を知れたことは進歩だと思った。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンの都市部と郊外における開発の格差の問題から日本における人口集中による過密化と地方での過疎化の問題が連想された。日本の問題を解決するためには、自治体のまちづくりはもちろんのこと、国内外問わず地域の魅力を発信していくことが重要だと感じた。多くの過疎地域では農業林業漁業が中心になっており、若者が流出してしまうため、若者が入ってくる魅力を作り、まちの基本的なインフラや通信等の整備、情報化を進めていくべきだと考えた。自分は、自分の口でまちの魅力を発信できるような英語力を身につけようと思った。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 3年

氏名: 前山駿佑

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先での学習内容は主に日本とフィリピンの違いについて学びました。経済における違いであったり、文化における違いであったり様々なことを身をもって学ぶことができました。まず、PUPの学生とおのおのが調べたフィリピンと日本の文化の違いについてパワーポイントつかって発表し、意見交換もしました。文化が違えば制度政策も違うのでとても善い学びになりました。また、フィリピン日本人商工会議所にも赴きフィリピンにおいて日本の企業がどのように活躍しているのかも知ることができました。経済特区での日比の関係もフィリピンでの雇用の実態や文化が違うところで働くことの難しさも学びました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地での生活を体験して得たものはやはり文化の違いでした。インフラ整備が行き届ききってないため交通渋滞が常で二手三手先を計画して行動することができず、その場での臨機応変な行動が求められました。また人柄がとても善く、日本人が過去に戦争で善くないことをしているにもかかわらず親しく接してくれ優しさを感じました。日本はとても時間に厳しいですがフィリピンでは時間がゆっくり流れているように感じ時間にある程度ルーズな部分も見受けられました。また、日本では見ることのできない貧困も実際に目にかかりました。ですが、彼らも彼らなりに生活をしていて彼らなりの仕事もしていることも知りました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前と研修後で最も成長した部分は英語能力と偏見だと思います。フィリピンでは常に英語で話さなければならず、もちろん自分たちだけで買い物も、店員への質問などもしなければならなかったのが必然的に英語を使う機会、英語を耳にする機会が格段に増え、自然と少しかけ話すこともできました。実際に自分の英語が相手にしっかり伝わるとうれしかったです。また偏見に関して、フィリピンは発展途上で汚い国なのでは無いかと考えていましたが、すべてがそうでは無くギャップが大きいだけなのだと感じました。また、優しさと温かみがあり、とても良い国だと思いました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回のフィリピン研修では日本にいたら到底経験できないことばかりの物でした。実際に現地に行かなきゃわからないこと体験できないことなどがあるからこそもっと外国の文化を知り、英語をも学ばなければならないと感じました。自分自身もっと語学を鍛えなければならないと思い知らされました。日本の枠組みの考えだけではとどまらずに、枠を伸ばして様々な国の良い文化を知り、日本でも参考にしたいと思いました。今回のフィリピン研修がきっかけでもっと海外に行ってみたいと考えたので、次回までにはしっかり英語を勉強したいと思います。また地域で外国でも通用する英語を学べる場所があれば良いと思いました。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 2年

氏名: 堀川優太

授業科目名	アクティブ・プログラム(フィールド研究)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>最初に訪れたフィリピン国立博物館では、フィリピンの芸術、人類学、考古学、植物学、地質学などに関する様々な展示品を鑑賞することができ、フィリピン独自の発展や文化を学ぶことができた。次に訪れたスペイン人が建設した城郭都市のイントラムロスでは、フィリピン統治のために、フィリピン人がいかに雑な扱いを受けていたかということが分かった。PUPで行われた学生交流では、お互いに、文化や経済に関してのプレゼンテーションを行い、それに関する質問をしあうことで、内容をより深く理解できた。また、日本語が通じないので、いかに自分の考えていることを自分が持っている語彙で伝えられるかの方法も少しわかった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>フィリピンで感じた日本との大きな違いとしては、やはり貧富の差である。街を歩いていると、子供が待ちゆく人からお金をせびっていたり、小学生にも満たない年齢の人が、一人でモノを売っていたりと貧しい暮らしを余儀なくされている人もいれば、しっかりと教育を受け、大学まで進学しているPUPやフィリピン大学の学生のような人もいて、その差に衝撃を受けた。マニラの商工会議所で話を聞いた際に、お金を持っている家庭では、貧しい人の暮らしを教科書を通じて知るとい話を聞き、同じ国の中でもそのようなことがあるのかと驚いた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私が一番成長したと思うところは、日本のあたりまえが世界の当たり前ではないということを知ったことであると思う。フィリピンでは、とんでもない貧富の差があったり、インフラの不整備のために雨が降れば道が池のようになり、道路が整備されておらず車で移動するときも車が大きく揺れることがあったりと、日本では目にしないことをたくさん目にした。そして今まで当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかったということをもっと実感した。また、英語を恥ずかしながらしゃべろうとする能力も、数日ではあるが、日本語の通じない環境にいたことで身についたと思う。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私が今後真っ先に取り組みたいこととしては、英語で会話ができる能力を身に付けることである。海外研修を通じて、聞きたいことがあっても、英語での伝え方が分からずに、質問ができなかったり、有意義な話も英語が理解できずに、先生の翻訳で初めて理解できたりと、自分の英語力のなさに落胆した。英語ができれば、海外に行ったときはもちろん、グローバル化が進んでいる現代で、大きな武器の一つになることは間違いないので、英語で会話ができる力を身に付けていきたい。また、フィリピンにも日本が見習うべきところがたくさんあったのでしっかりとまとめたい。</p>	